○伊豆諸島のウメバチソウ（大場秀章）Hideaki OHBA: *Parnassia palustris* L. in the Izu Islands (Japan)

北半球に広く分布するウメバチソウの変異の幅は広い。日本では，変種として区別される地方型が北海道，本州の高山帯，屋久島にある。伊豆諸島ではウメバチソウは新島，三宅・御蔵の各島の山頂部にのみ産することが知られている。伊豆諸島のウメバチソウは，花茎が低く，やや大形の一花を頂生する。葉は卵形で質が厚い。萼片は広卵形または円形で，幅は 6 mm 以上，また，花弁は長さ 12 mm，幅 10 mm に達し，広卵形で基部に明らかな爪がある。仮雄蕊は16から20裂する。

新島，三宅島，御蔵島の各山頂部はそれぞれ海抜 423 m，814 m，851 m あり，特に後2者には，ミヤマイタチシダ，コイワザクラ，シマヤマブキショウマ，シマキンレイカなど，温帯系の植物が少なからず生育している。これらは何回かあったうちのいずれかの氷期に渡来し，定着した遺存的なものと考えられる。ウメバチソウもそのような植物（最終氷期に渡来したのではないだろうか）のひとつと推定することができ，地方変種として区別し，イズノシマウメバチソウの和名を与えることを提唱する。

屋久島のヤクシマウメバチソウ（*P. palustris* var. *yakusimensis* (Masamune) H. Ohba）もやはり氷期の遺存型と推定されるが，イズノシマウメバチソウとはまったく異なる変異を示しているのは興味深い。ヤクシマウメバチソウは全体に繊細で花も小さく，萼片は線形または広線形で幅は約 1 mm，花弁は狭楕円形で基部には爪を欠き，長さ約 6–9 mm である。また仮雄蕊は 10–12 裂する程度である。屋久島低地にみられるウメバチソウでは仮雄蕊が 16–20 裂するが，花弁はやはり狭楕円形で幅が狭くなる傾向がある。ヤクシマウメバチソウの性質はウメバチソウ（狭義）よりは，北海道や東北地方に産するエゾウメバチソウあるいは本州高山帯のコウメバチソウに近いと考えられる。

Parnassia palustris L. var. **izuinsularis** H. Ohba, var. nov.

A typo lobis sepalorum latissime ovatis vel circularis, petalis late ovatis basi distincte unguiculatis differt.

Nomina jap. Izunoshima-umebatisô, nov.

Typus. Japonia. Honshu. Izu: in summis montis Oyama insulae Mikurajima, alt. 700 m (Yukio Ando 4155, TI)

Other specimens examined. Niijima Isl., Miyatuka-yama (Jotani s. n., TUA). Miyakejima Isl: loc. sine specialit. (Enomoto s. n., TI); Oyama (Jotani s. n., TUA). Mikurajima Isl., Oyama (Jotani s. n., TUA; Satomi 22339, KANA, TI); Ichinomori (Kurimoto s. n., TUA).

（東京大学 総合研究資料館植物部門）